

ユ一カリの里 特養・長期 令和8年度 個別事業計画

項目	課題	目標	取組の概要	実施方法	スケジュール												備考
					4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
収支改善	黒字化を図るためには、黒字の分岐点である95%以上の稼働率を目指す必要がある。ただし、在籍者率が100%になったとしても目標稼働率の95%に達するためには、退所後の早期、新規入所者の確保だけでなく、稼働率に大きく影響している、入院者数の減少と入院期間の短縮が必要である。	稼働率95%	空床期間短縮	退所見込み時点での入所調整開始や待機者への迅速な連絡、また面談、入所手続きの迅速化、空床予定情報の共有など、より効率化、迅速化を進める。													
			待機者情報の管理強化	待機者情報の定期確認やご家族様の意向確認などの強化													
			入院期間短縮への取組	早期退院のため、可能な限り病院との情報共有強化に努める													
			入院予防への取組	見守り機器「眠りSCAN」活用による状態変化早期把握や転倒・事故予防、また感染対策徹底、多職種連携による体調変化の情報共有や対応などの強化													
			空床利用型ショート活用	対応出来る範囲での、空床期間中のショート利用調整、緊急ショート受入対応などへの対応													
	生産性向上加算Ⅱの取得	生産性向上加算Ⅱの取得	眠りスキャンの有効活用	活用方法に関する職員研修													
				巡回の削減等の施行実施と結果のモニタリング													
			その他の機器の導入検討	導入検討会議の開催													

ユウカリの里 特養・長期 令和8年度 個別事業計画

[illegible]

ユウカリの里 特養・長期 令和8年度 個別事業計画

[illegible]

ユーカリの里 短期 令和8年度 個別計画

[illegible]

ユーカリの里デイサービス 令和8年度 個別事業計画

項目	課題	目標	取組の概要	実施方法	スケジュール												備考	
					4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
収支改善	予算計上時の目標稼働率80%の達成	稼働率80%の達成	利用者情報提供(令和7年度から実施中)															
			ボランティアによるイベントの実施(令和7年度から実施中)															
			移動販売の導入(令和7年度から実施中)															
			イベントの回数増により満足度の向上を図る。 ※イベントの回数増で臨時利用は分散される可能性がある。参加したい選択肢は増えるが、全体的な臨時利用数に今のところ大きな変化は生じていない	おやつレクの回数増加。														
			ケアマネ向け営業の強化	○現状行っている情報提供の継続、こまめな経過報告を行う														
				○退院前カンファレンスや担当者会議への積極的参加														
				○家族が来訪できる機会を増やし、良い評判に繋げる														
			ネット/広報の強化	○強みや「どんな1日を過ごしているのか」を写真等を使用し分かりやすく発信														
				○機能訓練の専門性を明確に打ち出す														
			今後も通いたくなるデイサービス作り	○個別性のある目標とプログラムの提供 ○レクリエーションのマンネリ防止と参加しやすい工夫	継続実施													
欠席対策と稼働の平準化	○こまめな体調確認と早めの代替利用日の提案 ○キャンセルが出やすい利用者を把握し、送迎調整などでフォロー。欠席を減らす工夫を行う。 ○相談員中心に「日ごとの目標人数」を決めて管理する	継続実施																

項目	課題	目標	取組の概要	実施方法	スケジュール												備考		
					4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
利益確保	令和8年度予算に掲げる年間収益7,205千円(月額 600,417円)の確保を目指すための指標としては、1か月あたりの目標件数を予防委託含め「175件」と設定する必要がある。 この場合の課題は以下のとおり。 1 個人の成長と組織受入数の連動: 個々のスキルアップを、滞りなく「組織全体の受入数」へと反映させるマネジメントの徹底。 2 業務の質と量のバランス: 件数増に伴う事務作業の増大が、対人援助の質を損なわないための効率化の推進。 3 業務負荷の偏り: 特定の職員に負担が集中しないための、動的なタスク管理と平準化。	目標件数(予防委託含む。)175件	受入体制の最適化 2年目職員の習熟度に応じた段階的なケース配分を行う(困難事例と予防事例のバランス調整)。	習熟度の再評価 2年目職員の現時点でのスキルを再確認し、無理のない範囲で受入可能な「ケースの質と量」を再設定する。	→														
				積極的な受諾開始 保留・辞退していた新規依頼の受諾を開始する。月3～5件ペースで着実に積み上げ、目標値との乖離を埋める。				→											
				目標件数への到達 12月末までに目標の175件到達を目指す。同時に業務負担のモニタリングを強化し、特定個人への偏りを防ぐ平準化を実施する。						→									
				支援の質の評価 175件体制を維持した状態での支援の質を評価し、次年度の体制強化に向けた課題を抽出する。									→						
			配分マネジメントの徹底 2年目職員には「比較的安定した継続ケース」を、ベテラン層には「新規・困難事例」を重点的に配分し、チーム全体の負荷を平準化する。	現状の見える化 全スタッフの担当件数と「対応可能な事例レベル」を共有し、チーム全体の余力を可視化する。	→														
				受入判断の迅速化 依頼時に「誰が受けるか」を即断できるよう、チーム内の優先順位と役割分担を明確化する。				→											
				戦略的受諾 包括支援センターや医療機関に対し、受入体制が整ったことを周知し、計画的な新規案件の確保を継続する。						→									
				成長のフィードバック 定期面談を通じ、件数増が「ケアマネジャーとしての専門性向上」に繋がっていることを再確認し、次年度へのモチベーションを維持する。								→							
													→						
															→				

グループホーム新町御池 令和8年度 個別事業計画

項目	課題	目標	取組の概要	実施方法	スケジュール												備考
					4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
収支改善	令和8年度予算において、収益を稼働率95%で算定しているが、令和7年度の実績では97.2%の稼働率を達成したにもかかわらずマイナスの収支となっているため、より高い稼働率の維持が必要である。また、並行して支出を減らす取り組みとして、業務分析を行い効果的な人員配置を画策しながら人件費を抑える取り組みを進める。	満床(27名)をできる限り継続する。最低でも『96%』(凡そ26名が常におられる状態)を維持する。	居宅介護支援事業所等への営業強化	満床であっても、毎月、市内の居宅介護支援事業所へ活動状況、空き状況をFAXや電話などで知らせる。このとき、随時見学可能であることを欠かさずアピールする。	▶	▶	▶	▶	▶	▶	▶	▶	▶	▶	▶	▶	
			紹介会社の、より一層の活用	紹介会社へ、定期的に利用者様の活動状況、空き状況をFAXや電話などで知らせる。	▶	▶	▶	▶	▶	▶	▶	▶	▶	▶	▶	▶	
			利用者が、体調不良が原因で入院や退所することなく、お元気で生活を続けられる	月に2度の主治医往診、毎週の訪問看護、歯科衛生士などの多職種と連携しながら現在の生活を継続できるように取り組む。	▶	▶	▶	▶	▶	▶	▶	▶	▶	▶	▶	▶	
安全衛生	人員体制が不安定な中でリスクを伴って業務を行っている場合が多くある。	安全に業務が行なえる。	業務内容について、どの業務、どの時間帯にリスクが生じているのか分析を行う。	各ユニットリーダーからの意見聴取			▶	▶									
			改善案を立案する。	各ユニットリーダーの意見を集約し、微細な箇所は迅速に見直し、検討が必要な箇所については改善案を立案する。					▶	▶	▶						
			改善案の試行実施及び改良	改善案を実施し毎月のリーダー会議の場で評価を繰り返し行う。								▶	▶	▶	▶	▶	
法令順守	介護福祉士が行えない医療行為についての知識が不足している職員がある。	法律を遵守した対応による医療との連携	主治医に相談し的確に指示を受ける手順の徹底。	介護福祉士が行えない医療行為に至った場合は、自己判断等を避け、速やかに主治医、訪問看護師に相談し指示を受ける。						▶	▶	▶	▶	▶	▶	▶	

グループホーム新町御池 令和8年度 個別事業計画

項目	課題	目標	取組の概要	実施方法	スケジュール												備考
					4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
救急対応	救急対応の頻度が少なく、実際に起こった場合に円滑に判断、実行ができない。	救急時に円滑に対応できる。	主治医や訪問看護の訪問時に観察方法や対応方法の助言を受ける。	月2回の主治医往診、週1度の訪問看護の訪問時に助言を受け、それを基に常日頃から意識を持って利用者様に携わる。													
			救急対応手順書の見直しを行い、特に夜勤に入る職員を中心に演習を行いながら、不測の事態に備えておく。	救急対応の手順書の整備を行う。													
				手順書を基に演習を行い備えておく。													
ケアの質の向上	サービスについて多角的に評価する場面が少ない。	より適切で健全なサービスを展開する。	京都市介護相談員派遣事業の受け入れ	受入の検討													
				依頼、日程調整等													
				相談員による、利用者、家族へのインタビューの実施													
組織風土改革・職員の意識改革	自身が所属しているユニットのこのみしか知らない職員が多く、緊急時や不足の事態に対応しにくい。	新町御池の利用者様を職員全員で見ることができる。	3つのユニットにおいて、設備、備品の保管場所や使用方法、タイムスケジュール、業務手順などの業務内容にを標準化し、統一する。	ユニットごとの状況を確認し、不統一な事項を確認する。													
				業務内容について統一基準を策定し、手順書等の文書にまとめる。													
				共通化した業務手順での業務の実施													
				他のユニットへの従事体験を重ねる。													
				統一基準の評価及び見直し													

居宅介護支援事業所新町御池 令和8年度個別事業計画

[illegible]